

こぼれ話

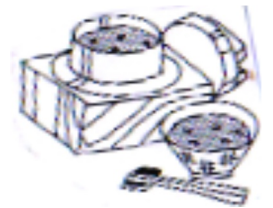
世の中、魚が獲れずに悪戦苦闘が続いている。「鮮魚出荷は宮古にまがせろ」とはだいたい以前に漁業界が発したスローガンだった。しかし、やはり加工品開発で付加価値を高めることも重要とみなし、お酒を酌み交わしているグループがある。その日の夜も数人で不漁続きの原因と加工品開発

の話で盛り上がっていた。A「やはりす、干物も計画的に造んねえばねえが」と力説した。みんなもその意見に同調した。が、Dは「カレイなんかの干物でええいいいどもす、俺はアズ(アジ)の干物は良ぐねえど思うが」とすこし異論を唱えた。一同「(なんでアジはダメなのよ)」と思った。Bがそれを口にした。「なんでアズではだめなのよ。カレイはよくてで・・」と。D「・・それは味に開きがあつからだ!」

「(あじにひらき?)」

わが家の

すき焼き



【材料】牛肉と豚肉、白菜、エノキダケ、春菊、長ネギ、豆腐、出汁の素、醤油、お酒、みりん、砂糖、卵、オリーブオイル。

「つくり方」冬の料理の定番のすき焼きはそれぞれ各ご家庭で通じ始めたから灰汁を取り、その具味を確かめ、足りないものを加えます。わが家は加減は味を少し濃めにします。④器に卵を溶き、どうぞ。 (中里団地/K・S)

漁民が採捕できるサケはえ縄漁の捕獲数は86尾。エサ代・燃料代にも事欠く!

議員 落合

派遣職員の体制構築ができるかどうか、負担割合は?

消防指令センターの良し悪しは

信指令共同運用のメリットとデメリット

● 119番通報が携帯電話で、現場付近に目標物が生じることがある。

● 3消防本部が自動態勢となるため、指令業務が煩雑になる。● 現状では指令センター派遣職員の通勤が遠距離になり負担が大きい。

また指令センター職員を専従化することで



11月20日現在3040トンで震災後最低値にサケはえ縄は前年同期比0.8%

秋サケ最悪



沿岸全体で尾数も重量も前年同期比でさらに後退

11月20日現在の秋サケ漁(河川捕獲を除く)は、重量で大震災後最低の3040ト(昨年3251ト、一昨年4080ト、H26年度7643ト、H25年度7212ト、H24年度3453ト)です。

これから来年1月末までに回復が切望されますが、依然厳しい状況です。そうした中でも前年比で増加(重量)しているのは、田野畑152%、船越159%です。

はえ縄漁は大ピンチ

はえ縄漁に至っては、尾数は前年比0.8%の86

尾、重量は243キ(0.24ト)、金額は沿岸全体で17万円でエサ代、燃料代にも事欠く状況です。

当然「品薄状況」から金額は全体で31億5792万円で、前年同期比127%で、平均単価もキ〇当たり1039円(136%)と引きあがっています。

市場関係者はどう見る

市場関係者は「幾分増え始まったが、これが来年1月まで続くかどうかは予断を許さない」「わずかに増えたと言っても比較する対象年度が震災後最悪の昨年、一昨年と比べてで、まったく不安だらけです」と話しています。

他方で河川での捕獲数は河川捕獲数で特筆すべきは有家川が13814尾206%増、安家川36832尾で7516%増です(続く)。

読者の文芸欄

短歌 金沢邦臣(田鎖)

● 読み疲れ眼休める庭先に綿木紅く色づきてあり

● 晩秋の寒さふた無き側溝に輝き咲けるタンポポの花

自注/秋もすぎ冬に入っています。木や草が枯れていく陰でまだガバッテいる生きものもいます。

情報

いや、八木沢の「釣りの師匠」が見事な釣果をあげている。そのポイントとは田老・小堀内漁港付近である。

50センチ超のアイナメを3本も釣り上げた、というから驚きである。師匠いわく「いや、帰る時のリックサックが重くてす」。

仕掛けはごく普通である。すべて足元にエサを落とすして釣り上げた。その引きたるや強烈だった。竿は90度に曲がり、針もひんまがった。このポイントに着くのが至難の業である。なぜなら海にせり出した岬の足元二か所を駆け抜けないとだめだからである。満潮で時化していると難しい。打ち寄せた波の形状を見て駆け抜けなければならない。

「楽しんで喜びなし」。

これはすべてに通じる。

